

大玉村都市計画マスタープラン及び大玉村立地適正化計画 第2回検討委員会 会議録（要点筆記）

- 日 時 令和6年3月26日（火）13時30分～14時25分
- 場 所 大玉村保健センター 2階 大会議室
- 出席者 委 員 武田正男委員長、鈴木幸一副委員長、遠藤勝栄委員、尾形喜好委員
渡邊浩彰委員、菊地平一郎委員、斎藤泉委員、伊藤忠和委員
斎藤泉委員、伊藤忠和委員、石塚裕子委員、松山智委員
櫻澤一朝委員（代理：福島拓哉）、小野田慎委員
オブザーバー
国土交通省東北地方整備局 建政部都市・住宅整備課長
事務局 産業建設部長、建設課長、建設課長補佐兼道路計画係長
建設課管理係長、建設課管理係主事
（支援委託会社3名）

● 内容

1. 開会
2. 委員紹介
3. 委員あいさつ
4. 議題
 - (1) 都市計画マスタープランの改定について
 - 【1】都市計画マスタープランの素案の検討 資料1
 - (2) 立地適正化計画の策定について
 - 【1】防災指針の検討 資料2
 - 【2】立地適正化計画の素案の検討 資料3
5. その他
6. 閉会

[開始 13時30分]

1. 開会
2. 委員紹介
3. 委員あいさつ
4. 議題
 - (1) 都市計画マスタープランの改定について
 - 【1】都市計画マスタープランの素案の検討 資料1

事務局が配布資料に基づき説明した。

（委員長）

大玉村都市計画マスタープランの改定についてご意見があれば伺いたい。

（委員）

資料1のP18では大玉ゲートウェイは3つの地域を一体とした総称と説明があるため理解しやすいが、資料1のP6で大玉ゲートウェイの拠点を縦並びで記載するのは避けるべきと思われる。そのため、同じような意味を持つ表現であれば並列及び集約して記載することを検討いただきたい。また、文言の整合性を確保していただきたい。

(事務局)

大玉ゲートウェイの記載については、頂いた意見を検討し、第3回大玉村都市計画マスタープラン及び大玉村立地適正化計画検討委員会で回答させていただきたい。

(2) 立地適正化計画(策定)について

【1】防災指針の検討

資料2

事務局が配布資料に基づき説明した。

(委員長)

防災指針の検討についてご意見あれば伺いたい。

(委員)

土石流や水災害などのハザード災害があるが、大玉村にある百日川のハザードマップは現在、県で検討段階であるということ、過去に村内の百日川沿川で水災害実績も特でない状態と説明があったところである。しかし、資料2のP5で火山災害の土石流ハザードマップには「100年超過確率の雨が降った場合に発生する可能性がある土石流について想定」と記載がされている。そのため、水災害を100年超過確率として想定すると、百日川の水害ハザードマップはその土砂災害ハザードマップに類似することが想定される。また、人口が集積している村中心部に災害のリスクが顕在化する恐れがあるため、対策をよりレベルをあげていくことを検討いただきたい。考えられる対策として、百日川の水害ハザードマップが完成次第村民に周知徹底する取り組み等が挙げられる。

(事務局)

福島県で百日川の水害ハザードマップの作成を進めているとのことで、進捗状況を把握し、対策についてはご意見を参考に検討していく。

(委員長)

百日川の水害ハザードマップの策定と大玉村立地適正化計画の策定が同時期になることは問題ないのか。

(事務局)

福島県は7～8月頃に百日川の水害ハザードマップを策定予定のため、その内容を踏まえた防災指針を検討したい。

(委員)

能登半島地震で液状化現象が問題視されたが、福島県として液状化現象についての対策を検討しているか。

(委員)

液状化現象は地下水位が高い砂層で、地震動によりその砂層が揺らされた時に発生する現象である。具体的には、地震動により水と砂の粒子が離れ、砂が液体のように流動することを液状化現象と呼んでいる。大玉村のような山間部の地形上では発生しないと断言できないが、発生する可能性は低いと考えられる。大玉村で液状化現象の可能性のある場所は河川の近くが想定できる。

(委員)

大玉村の地形は安達太良川や杉田川、安達太良山に囲まれた地域のため、大玉村は堆積物でできた地形ではないのか。

(委員)

大玉村の地形は、西の山間部から東の平野部に緩やかな傾斜を伴ったいわゆる扇状地であり、過去から堆積物が様々に重なりできた地形である。液状化現象が発生しやすい地形は、地下水位が高く砂層の割合が高い地域、特に海洋に面した沿岸部や埋立てした港湾部などで発生しやすい。そのため、面的に考えれば大玉村のように様々な堆積物がある地形で液状化現象の発生する可能性は低い。しかし、可能性が低いということであり、絶対に発生しないということではない。

平成23年東日本大震災の被災事例を調査すると、内陸部においても液状化現象により道路下にある横断暗渠や上・下水道管路の損傷及び路面の亀裂・段差の発生、またマンホールの浮き上がりが発生した事例があるので補足する。

【2】立地適正化計画の素案の検討

資料3

(委員長)

大玉村立地適正化計画策定についてご意見あれば伺いたい。

(オブザーバー)

国道4号の東側に人口が増加する地区が見られるが、居住誘導区域に含めない理由について伺いたい。

(事務局)

立地適正化計画を策定している自治体で、開発しやすい郊外で人口が増加する事例は多い。大玉村でも同様な状況はみられる。大玉村で人口集積がみられる地区の中で、都市機能集積や人口密度を勘案し、大玉村役場周辺の玉井地区と大山小学校周辺の大山地区に絞り誘導区域の設定を行った。特に玉井地区の大玉村役場周辺は都市機能が集積するものの空家が多く、政策的にも優先的な居住誘導施策が必要だと考え設定したものである。

ご意見を踏まえて、改めて除外理由などを精査し、立地適正化計画に反映する。

5. その他

第3回大玉村都市計画マスタープラン及び大玉村立地適正化計画検討委員会を4月下旬に開催することを検討している。今回頂いた意見を再度事務局で検討し回答したい。

第3回大玉村都市計画マスタープラン及び大玉村立地適正化計画検討委員会の後は地区説明会の開催を検討している。

6. 閉会

[終了 14時25分]
